

第1回

令和2年7月豪雨に伴う轟峡法面崩壊等再発防止検討委員会 議事要旨

- ・日時：令和2年9月24日（木）16：00～18：15
- ・場所：諫早市役所本館5階大会議室

1. 事前現地調査（13：50～15：00）

- ・現地到着後、献花
- ・約1時間にわたって、被災状況や地質状況、湧水状況などについて詳しい現地調査を実施

2. 委員会

（1）開会

- ・宮本市長より5人の委員へ委嘱状を交付
- ・市長挨拶
- ・委員の互選により、長崎大学大学院工学研究科の蔣宇静教授を委員長に選出
- ・蔣委員長が、職務代理者に、長崎大学大学院工学研究科の杉本知史准教授を指名
- ・宮本市長より蔣委員長へ諮問書を交付

（2）議事全体概要説明

- ・事務局より資料等の説明
 《資料－1 全体概要説明》
 1. 令和2年度7月豪雨における諫早市の災害発生状況
 2. 轟峡の概要と変遷

《資料－2 現地踏査写真集》

1. 被災状況
2. 擁壁被災状況
3. 湧水状況
4. 周辺の危険因子
5. 岩盤の露頭状況

《資料－3 図面等》

1. 青雲荘付近の被災前状況図
2. 現地踏査平面図
3. 調査計画図(案)
4. 調査計画(案)平面図
5. A測線推定断面図
6. B測線推定断面図

(3) 委員会討議

・災害状況説明に対する討議<委員からの指摘、提案等>

1. 道路路面の標高や傾斜などを調査することにより、地表水の流れなどを確認することが出来るため、調査を行い降雨時の地表水の流れを確認して頂きたい。
2. 青雲荘下の石積及び腹付コンクリートが崩壊しているが、根入部が不明である。被災していない箇所での確認をお願いする。
3. 地上から高い位置に損傷が見られる立木があり、これらを調査することで被災状況の解析に資することができる可能性がある。現地を再度詳細に調査することををお願いする。
4. 崩壊前からあった腹付コンクリートのずれの写真により、亀裂の入り方や開きの寸法など可能な範囲での分析を行い、すべり又は転倒のいずれによる被災であるのか確認をお願いする。また、亀裂の開きの測定箇所が不明であるので、可能であれば整理してもらいたい。
5. 被災直後の写真等資料があるので一次崩壊範囲および、その後の降雨等による2次崩壊範囲を分けて図示して頂きたい。
6. 地上レーザー測量の点群データを用いて、崩壊地の状況や路面の勾配等を3次元的に表現してもらいたい。
7. 断面図は上方・下方(対岸)に延伸し、広範囲の地質状況を示してもらいたい。

・現地調査計画についての討議<委員からの指摘、提案等>

1. 次回開催時には、調査されたボーリングコアを確認したい。
2. ボーリングで採取したコアはすべて確認したいのでコア採取優先としたい、そのため標準貫入試験は別孔での実施を提案する。
3. 駐車場北側に微小亀裂があり、切土盛土の境と想定されるので、この付近でボーリング調査あるいは試掘を実施し、地質状況を確認することが望ましい。
4. ボーリング孔内の水位がどの層の水位を示しているか注意が必要である。
5. A測線北側の岩盤状況を含め駐車場付近の状況についてBV-3とBV-1を活用し、縦断的な地層の横断図を作成して表現してもらいたい。
6. 斜面の安定解析を行うにあたり、土質試験を実施することが必要と考えるが、試料の採取場所や試験項目、試験方法などを十分検討する必要がある。
7. 土質試験結果を今後の解析にどう結び付けるかが重要であり、元々の地山状況はB測線で調査するので、そのコアを利用することも検討し調査をお願いする。

(4) 今後の調査事項

本日の討議結果を受けて、今後必要な調査・試験計画については事務局で具体案を整理し、委員長の指導・承認を得たうえで実施することで委員会の承認を得た。